



facebook

Facebookを 活用した 災害対策と対応

災害対策、災害発生時の対応、そして
復旧への取り組みにおける
Facebookページの活用方法

地域における
災害対策の構築

災害時対応と
支援体制の整備

進行中の災害
対応や復興活
動への参加

地域の復旧に
向けた活動の
サポート

Facebookは、災害への備え、実際に緊急事態が発生した際の対応、そして復旧への取り組みに、有益なツールとして活用いただけます。災害の発生時には、行政機関や団体、そして個人レベルで、それぞれさまざまなリソースから信頼できる情報をタイムリーに収集して迅速に配信することが可能です。周りの人達や地域住民と団結したり、救助隊から受け取った重要な最新情報を共有するためにもFacebookは利用いただけます。このガイドでは、災害への事前の対策、災害時の対応、そして復旧にFacebookを最大限に活用いただくために参考となる機能や事例をご紹介します。

さらに詳しい情報をお探しの場合、またはご自身の実践されているFacebookの活用方法を共有いただくには、facebook.com/Disasterをご覧ください。

目次

災害対策、対応、復旧時のFacebookの活用方法



災害時対応と災害支援を担う
組織のためのヒント

ページ 4 - 12



救助隊と行政機関の
ためのヒント

ページ 13 - 21



個人とコミュニティの
ためのヒント

ページ 22 - 29

facebook.com/disaster



1

セクション



災害時対応と災害 支援を担う組織の ためのヒント

Facebookを通して、災害時に支援を行う組織は、地域の人々に支援活動への参加を呼びかけることができます。安全に関する情報の収集と共有などの連携体制を迅速に整えるためにも有効です。Facebookの各機能を知っておくことで、非常時や災害時にも、迅速にお役立ていただけます。

主な機能

Facebookページ



災害時対応と災害支援を担う組織は、Facebook上に「Facebookページ」を作成することで組織の活動や目的に関心を持つ人々と、双方向のコミュニケーションの場を持つことができます。ページをいいね!してくれた人々にさまざまな情報を伝え、長期的に良好な関係を築くために、タイムラインやカバー/プロフィール写真、[基本データ]といった機能を充実させるとうまいでしょう。

人が集まるFacebookページには:

- カバー写真には、組織とその活動目的に合った写真を選ぶ
- プロフィール写真には、組織を知っている人にも知らない人にも、組織がわかりやすく伝わる写真を使う
- 組織のページの[基本データ]には、組織の目的、ビジョン、活動方針を明確に入力する
- 投稿はこまめに行い、タイムリーな情報が表示されるようにする
- 組織の活動内容に関連する他のFacebookページに「いいね!」やフォローを行い、そうしたページからの投稿やリンクを自ページのフォロワーにシェアする

例



日本赤十字社



日本ユニセフ協会

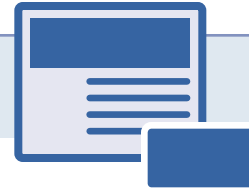


特定非営利活動法人日本防災士会

詳細はこちら
facebook.com/help/pages

主な機能

ページ投稿



ページへの投稿は、組織のFacebookページをフォローしている人々と組織を結ぶ重要なコミュニケーション手段です。

投稿の利用目的:

- 地域内の交流を活発にするため
- 災害時に各地域で利用可能な施設や備えについて周知し、必要とする人々と結び付けるため
- 救援物資の入手や、支援を得るための方法を周知するため
- 防災対策について周知し、防災意識の向上を呼びかけるため

日本赤十字社
【避難所にいらっしゃる被災者のために～長野県神城断層地震】
11月22日に発生した長野県神城断層地震の災害に対して、現在も日赤は救護活動を続けています。

本日27日も長野県支部救護班が活動中。小谷村（おたりむら）の避難所で巡回診療を行っています。また、大町市、白馬村、小谷村に毛布計250枚、安眠セット（※）計140個を届けました。

※安眠セット：キャンピングマット、枕、アイマスク、耳栓、スリッパ、靴下など

いいね！・コメントする・シェア・送信・2014年11月27日・編集済み

👍 3,933人がいいね！と言っています。

📄 シェア113件

平常時

災害が実際に発生する前から、地域の住民にどんな情報を提供するのか、投稿する内容や形式のルールを決めておきます。定期的に投稿を行うことで、災害時にも正確で信頼できる情報を提供する組織であると信頼を得ることができます。たとえば、深刻な気象災害時に保安情報や防災対策を投稿し、防災意識の向上を呼びかけてもいいでしょう。

災害時

タイミングが非常に重要です。こまめに最新状況の写真や動画を投稿し、詳しい情報へのリンクをシェアします。必要に応じて、投稿ターゲットを対象地域に絞って設定します。投稿のコメントセクションに寄せられる質問やフィードバックにはこまめに対応し、常にページに寄せられる反応に目を配ります。

災害後

被災地域で住民が支援を受けられる場所や、復旧活動を支援する募金やボランティアの募集について、信頼できる情報を投稿します。

例

日本赤十字社
2014年11月27日・編集済み・📄

【避難所にいらっしゃる被災者のために～長野県神城断層地震】
11月22日に発生した長野県神城断層地震の災害に対して、現在も日赤は救護活動を続けています。

本日27日も長野県支部救護班が活動中。小谷村（おたりむら）の避難所で巡回診療を行っています。また、大町市、白馬村、小谷村に毛布計250枚、安眠セット（※）計140個を届けました。

日本赤十字社長野県神城断層地震における救護活動

公益財団法人日本ユニセフ協会
2014年3月4日・📄

【東日本大震災復興支援「3年レポート」を発表～レジリエントな社会を、子どもたちと。】

「あの日」から間もなく3年。日本ユニセフ協会が、ユニセフ本部や協力企業・団体などの協力を得て、震災発生直後から続けてきた緊急・復興支援活動も丸3年を迎えます。

「あらゆる自然災害で、最も困難な状況におかれて」まうのは子どもたち、というユニセフの緊急時対応指針に照り、結ばれたまたユニセフの

日本ユニセフ協会東日本大震災緊急・復興支援活動

特定非営利活動法人 日本防災士会さんが新しい写真6枚を追加しました
2014年9月21日・📄

兵庫県支部だより
兵庫県防災士会

丹波市豪雨災害から1ヶ月

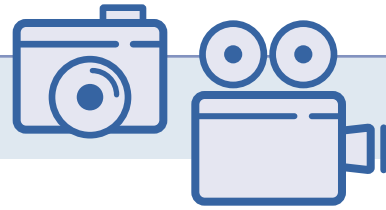
8月16日から17日にかけて前線の影響で記録的豪雨に見舞われた丹波市市島町への災害ボランティアも早いもので1ヶ月がたちました。相変わらず、広島県や京都府福知山市の報道に驚いてしまい、ほとんど表に出てこ

日本防災士会丹波市豪雨災害ボランティア

詳細はこちら
facebook.com/help/sharing

主な機能

写真と動画



タイムラインの写真



写真や動画を活用し、よりわかりやすく現状を伝えることで、人々の関心を高めることができます。

写真と動画の利用目的:

- 文字の投稿に画像を加えることで、内容をより充実させるため
- 状況の深刻性をより強く伝えるため
- 復旧活動の進捗を伝えるため

平常時

ページ投稿に、写真や動画を定期的を含めるようにします。真実に基づいたコンテンツは見る人とページのつながりを強め、災害時にも組織のページを信頼できる感じてもらえる力を持っています。

災害時

災害の最中では、随時どこで何が起こっているのかを伝える写真や動画を投稿して、状況の変化を周知します。

災害後

組織が復旧活動をどのように支援しているのかをわかりやすく伝える記事を写真や動画を添えて投稿します。

例



豪雨災害に対応して出動する兵庫県日本防災士会救援隊員



平成25年のフィリピン台風で支援活動を行う日本ユニセフ協会



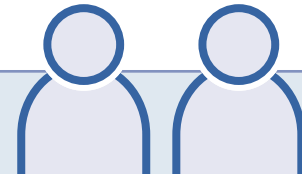
東日本大震災から1年を経た状況を伝える日本赤十字社

詳細はこちら

facebook.com/help/photos/uploading

主な機能

Facebookグループ



人々をさまざまなグループに分けて管理するには、Facebookグループ機能が便利です。グループでは必要に応じて公開、非公開、秘密という3段階のプライバシー設定ができます。

グループの利用目的:

- 組織内部の調整
- ボランティアの組織化と作業のまとめ
- スタッフや現地の支部との間の専用連絡手段として
- 戦略的パートナーや機関とプライベートに連絡を取り合うため

平常時

防災対策を口コミで広める、ボランティアを募集する、ボランティアメンバーを追加で募るなど、特定の目的や目標に従ってFacebookグループを作成します。

災害時

特定のメンバーに迅速に情報を伝達したり、グループ内の人々を相互に結びつけるためにグループを活用します。

災害後

災害の結果生じた個別の問題や要望に取り組むグループを作成し、維持します。

例



オックスファム・ニューヨーク 活動グループ

(Oxfam Action Corps New York City)



アメリカ赤十字社 ソーシャル・ヒーローズ

(American Red Cross Social Heroes)



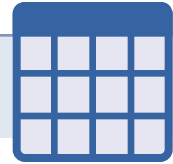
ユナイテッド・ウェイ アトランタ支部 ヤング・プロフェッショナル・リーダーズ

(United Way of Greater Atlanta Young Professional Leaders)

詳細はこちら
facebook.com/help/groups

主な機能

イベント



Facebookのイベントは、災害対策や災害発生時の対応、事後の復旧のためにオンラインやオンラインで、または現場で人々を集めるために活用できます。イベントへの参加を選択した利用者は、イベントページ上での会話に加わり、イベント当日までFacebookを介してさまざまなお知らせを受け取ることができます。

イベントの利用目的:

- コミュニティが共有する目標を設定するため
- 特定の災害について、より多くの人々に知ってもらうため
- オンラインまたは直接の寄付、ボランティアの機会について周知する手段として

平常時

Facebookイベントを介して防災対策や意識向上を呼びかける活動を企画し周知します。

災害時

災害の影響を直接受けた地域で活動する組織の場合、災害発生後、可能な限り迅速にFacebookイベントを作成し、支援を得られる場所を地域の住民に周知し、誘導します。

災害後

Facebookイベントを活用し、寄付や輸血、食料提供などの呼びかけや調整、オンラインでの支援活動のサポートを行います。

例



世界水の日 ユニセフ・アートコンテスト
(UNICEF World Water Day Art Contest)



日本ユニセフ協会



日本防災士会

詳細はこちら
facebook.com/help/events

その他の役立つ機能

ハッシュタグ

#



公益財団法人日本ユニセフ協会さんがUNICEF Philippinesさんのアルバムをシェアしました。

2013年11月28日 · 公開

【フィリピン台風：船の中の避難生活】

台風30号で座礁した船。今、この船の中で、20以上の家族が一時的に避難生活を送っています。

路上のテントよりも、頑丈で丈夫そうな船。「船の中で友だちと遊んでいれば、つらい思い出を忘れることができるよ」という子どもも。

ユニセフは、一人でも多くの子どもたちの命を守り、安全な生活を確保できるよう、支援活動を進めています。

被災した子どもたちを支援するため、引き続き、皆さまのご協力をお願い申し上げます。ご支援いただいているみなさま、ありがとうございます。

<フィリピン台風緊急募金>ウェブサイトはこちら

><http://j.mp/170bA2H>

#フィリピン #台風



単語や語句の前に“#”の記号を付けると、その単語や語句はハッシュタグと呼ばれるクリック可能なリンクになります。ハッシュタグを利用することで、特定のトピックに関心を持ち、関連する情報を検索する人たちの目に触れやすい投稿を作成することができます。

ハッシュタグの使用目的:

- 緊急事態における特定の事柄について、更新情報を知らせるため
- 被災地にいる人々に支援を受けられる場所を知らせるため
- 組織の活動に注目を集めるため
- 特定の災害やトピックについての議論を広める、またはその議論に参加するための方策として

詳細はこちら

facebook.com/help/hashtags

ノート



Support Links for Areas Affected by Sandy

2012年11月4日 18:50 · 公開



The Red Cross isn't the only group of people using teams of digital volunteers to help the many, many people affected by Superstorm Sandy. There are thousands of people creating webpages, Facebook pages, Facebook groups and Twitter accounts to get the word out about need and assistance.

The American Red Cross is currently doing its part to provide emergency services along with other major organizations. But those big organizations can't do it alone. This is a team effort. Our Red Cross digital volunteers have started a collection of links that include groups and sites focused on helping in the aftermath of the storm. Please consider sharing additional links in the comments. This page will constantly change. Feel free to message, digital volunteer, Jen Reeves (<http://facebook.com/jenleereeves>), if you are interested in collaborating.

SANDY GROUPS, PAGES, WEBSITES (Facebook and Websites)

Hurricane Sandy 2012 Help and Resources Page
<https://www.facebook.com/groups/298882190227625/>
Humanity Road<http://www.humanityroad.org/Sandy.htm>

Breezy Point

Breezy Point Cooperative Hurricane Sandy Information:
<https://www.facebook.com/BreezyPointCooperativeHurricaneSandyInformation>



Facebookのノート機能を使うと、通常より長いコンテンツ(ニュース記事やブログ投稿と同程度の量の文章)を、Facebookページのフォロワーやより広い範囲のコミュニティに向けて公開できます。

ノートの使用目的:

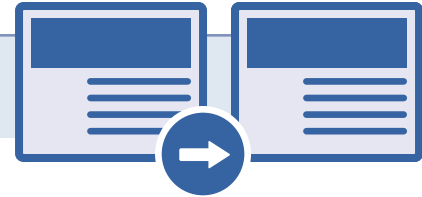
- 防災活動についての詳細を提供するため
- 最近起きた緊急事態について地元住民に最新の情報を伝える手段として

詳細はこちら

facebook.com/help/notes

その他の役立つ機能

関連Facebookページのフォロー



関連するFacebookページにフォローや「いいね!」をすると、組織間のつながりや連携を促すのに役立ちます。ひとつのページを見ている人々に関連ページの存在を知ってもらう機会にもなります。

詳細はこちら
facebook.com/help/follow

タグ付け



他のページを投稿にタグ付けすると、その投稿から相手ページへのリンクが作成されます。自分たちのページ以外へのタグ付けによって、自分の作成したコンテンツのリーチが増えるだけでなく、投稿自体の信頼性も高まります。また、自分たちのページをフォローする人々は、より簡単にFacebook上の他のページへアクセスできるようになります。

詳細はこちら
facebook.com/help/tagging

ページのメッセージ機能



ページのメッセージ機能を活用して、Facebookを使用している人々と直接コミュニケーションをとることができます。あなたの組織に連絡をする方法を知らない人でも、メッセージ機能を使えば情報を直接共有できます。

詳細はこちら
facebook.com/help/pagemessages

メッセージの使用目的:

- Facebookの利用者が組織と情報を共有するための手段として
- 疑問に対する回答や支援を求める人々のための補助的なコミュニケーション手段として
- 緊急性の高い情報を相互にやりとりするため

主なポイント



1

組織で運営するFacebookページにはこまめに投稿して、日頃から人々と交流を保ち、信頼のおける情報源になるようにします。

2

写真や動画を投稿すると、見る人の関心を引きつけ、反応を促すのに役立ちます。

3

質問には誠実に回答し、地域住民にはこちらから提供した知識を他の人にも広めてくれるようお願いします。

4

投稿のコメントセクションを活用して、ページのフォロワーと交流します。

5

Facebookのグループ機能やイベント機能を使用して、現地での活動を企画します。

6

組織外の専門家や他の組織の投稿やリンクをシェアしたり、連携して活動するグループをタグ付けしてその動向を紹介します。

7

ハッシュタグを使って、Facebook上でより大きな規模で交わされている会話に加わったり、その会話を活性化します。

セクション

2



救助隊と政府機関 のためのヒント

Facebookをどのように活用できるかを知っておけば、救助隊や行政機関と一般市民とをつなぐ窓口を設けることができます。緊急時には現地の地方公共団体とすばやく連携して、人々が最新情報を得れるよう、また安全でいられるようサポートできます。

主な機能

Facebookページ



災害時対応と支援を担当する組織は、Facebook上に「Facebookページ」を作成することで地域の人々と双方向のコミュニケーションの場を持つことができます。Facebookページは、地域の人々にさまざまな情報を伝達し、長期的に良好な関係を築くことができます。そのためにタイムラインやカバー/プロフィール写真、[基本データ]といった機能を充実させると良いでしょう。

人が集まるFacebookページには:

- カバー写真には、組織がどのように地域の人々にサービスを提供し、安全に守るために活動しているかが伝わるようなものを選ぶ
- プロフィール写真には、組織を知っている人にも知らない人にも簡単にそれと認識できる写真を使う
- [基本データ]では、組織の目的、ビジョン、活動方針を明確に説明する
- 投稿はこまめに行い、関連性が高くタイムリーな情報が表示されるようにする
- 関連するFacebookページ(共同体組織、コミュニティリーダー、担当地域の関係機関など)に「いいね!」やフォローを行い、関連性の高い投稿、写真、動画、リンクをフォロワーにシェアする
- 防災対策のヒントや便利な連絡先リストなど、アクセスしやすく、信頼性の高い情報を記載した永続的なコンテンツを作成する

例



内閣府防災担当



国連広報センター



災害時こころの情報支援センター

詳細はこちら
facebook.com/help/pages

主な機能

ページ投稿



ページへの投稿は、組織のFacebookページをフォローしている人々と組織を結ぶ重要なコミュニケーション手段です。

投稿の利用目的:

- 地域の交流を喚起するため
- 防災対策について周知し防災対策の実践を支援するため
- 災害時の支援活動とその対応窓口など、特定の事態への対応の状況を担当地域の住民に逐次知らせるため
- 救援物資を入手したり、支援を受けたりする方法を知らせるため

平常時

地域の住民に情報を提供し、ページへの興味を保つためのページ投稿の要項を策定しておきます。たとえば、深刻な影響を及ぼす可能性のある災害(接近中の台風など)に関する防災対策のヒントなど、タイムリーな情報を投稿するのもいいでしょう。

災害時

タイミングが非常に重要です。こまめに最新状況の写真や動画を投稿し、詳しい情報へのリンクをシェアします。ページ上でやりとりされている会話を常に目を配り、投稿のコメントセクションに寄せられた重要な質問には、一定時間内に回答するよう心がけましょう。

災害後

地域住民が公式情報を入手したり、支援を受けられる場所、地域の復旧活動のサポートを得られる場所について、明確な情報を投稿します。民間の支援団体や復旧活動に携わる人をページに招き、関連情報をシェアします。

例



内閣府防災担当



災害時こころの情報支援センター

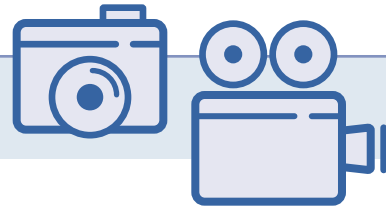


国連広報センター

詳細はこちら
facebook.com/help/sharing

主な機能

写真と動画



タイムラインの写真

アルバムに戻る・国連広報センター (UNIC Tokyo) さんの写真・国連広報センター (UNIC Tokyo) さんのページ

前へ・次へ



いいね！ コメントする

写真や動画は、組織のイメージを明確にしたり、よりわかりやすく現状を伝えることができ、人々の関心を高める 効果があります。

写真と動画の利用目的:

- 救助隊などの組織が、その役割と義務について地元から理解を深めてもらうため
- 深刻な状況や緊急の対応に取り組んでいることを伝えるため
- 災害対策や災害が起こった時の対応、復旧の模範を示すため

平常時

写真は組織のイメージを明確にし、市民からの信頼感や親近感を高める効果があります。定期的に写真や動画を投稿することでページを見る人々との交流を深め、信頼できる情報源としての評価を獲得します。

災害時

どこで何が起きているのかを伝える写真や動画を投稿して、状況の変化を知らせます。時時刻々と変化する状況を迅速に共有するため、ニュースサイト、他の信頼できる機関や組織、一般市民などから提供された写真や動画をシェアします。

災害後

被災地の復旧や再建を支援する救助活動を、写真を添えた記事で紹介します。

例



国連広報センター掲載



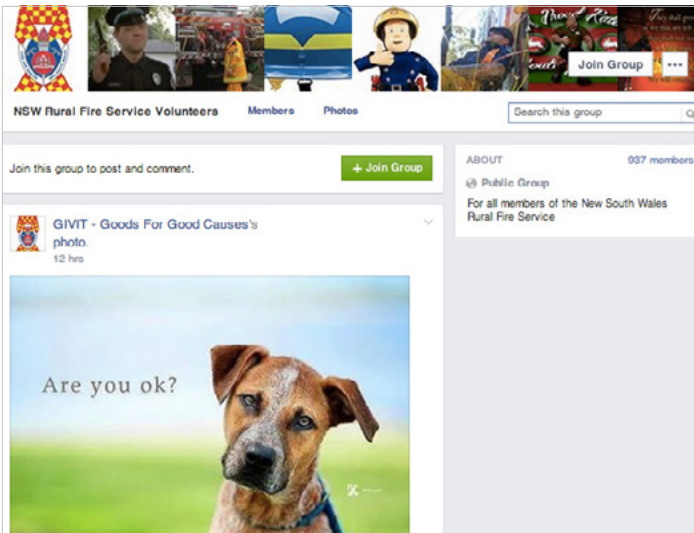
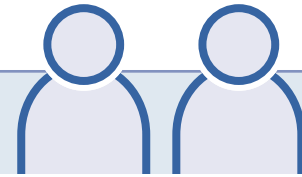
災害時こころの情報支援センター掲載

ニューサウスウェールズ州消防隊による火事関連情報
(New South Wales Rural Fire Service)

詳細はこちら
facebook.com/help/photos/uploading

主な機能

Facebookグループ



人々をさまざまなグループに分けて管理するには、Facebookグループ機能が便利です。グループには必要に応じて公開、非公開、秘密という3段階のプライバシー設定ができます。

グループの利用目的:

- 救助隊の家族専用の連絡手段を作るため
- 内部でシフトや人員の調整を行うため
- ボランティア人員を組織し、その業務を管理するため
- 戦略的パートナーや政府機関とプライベートに連絡を取り合うため

平常時

コミュニティを組織して活動を調整するなど、特定の目的や目標のためにFacebookグループを作成して参加者を募ります。

災害時

グループ機能を使って、特定の業務や活動について責任を負う人々に、それぞれ関連する情報を迅速に伝達します。

災害後

災害の結果生じた問題や要望に取り組むグループを作成し、維持します。

例

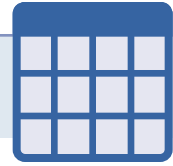


アメリカ合衆国連邦緊急事態管理庁
(FEMA) 予備役グループ
(FEMA Reservists)

詳細はこちら
facebook.com/help/groups

その他の役立つ機能

イベント



Facebookのイベントは、災害対策や災害発生時の対応、事後の復旧のためにオンラインや現地で人々を集めるために活用できます。イベントへの参加を選択した利用者は、イベントページ上での会話に加わり、イベント当日までFacebookを介してさまざまなお知らせを受け取ることができます。

イベントの使用目的:

- Facebook上や現場で、地域住民の共通目標を確認し、連携意識を高めるため
- 災害への危機意識を高め、注意を喚起するため
- 寄付やボランティアの機会を作り、周知するため
- コミュニティの緊急時対応チームの編成、救急手当や心肺蘇生など救急救命法の訓練の企画を行うため

平常時

イベント機能を利用して防災訓練をスケジュールし、周知します。

災害時

被災地域外の機関の場合、イベントを作成することで速やかに現地へ支援を提供できます。たとえば、被災地に送る支援物資として食料や衣服の寄付を募るといった使い方が考えられます。

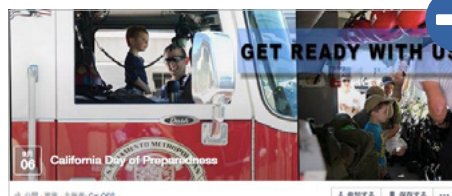
災害後

Facebookイベントを活用し、支援、復旧サポートのためのチームを組織して調整します。

例



ニューサウスウェールズ州消防隊による消防署の一般開放
(Open Day 2014)



カリフォルニア州救急隊 カリフォルニア州災害対策の日
(California Day of Preparedness)



国連広報センター

詳細はこちら
facebook.com/help/events

その他の役立つ機能

ハッシュタグ

#



単語や語句の前に“#”の記号を付けると、その単語や語句はハッシュタグと呼ばれるクリック可能なリンクになります。ハッシュタグを利用することで、特定のトピックに関心を持ち、関連する情報を検索する人たちの目に触れやすい投稿を作成することができます。

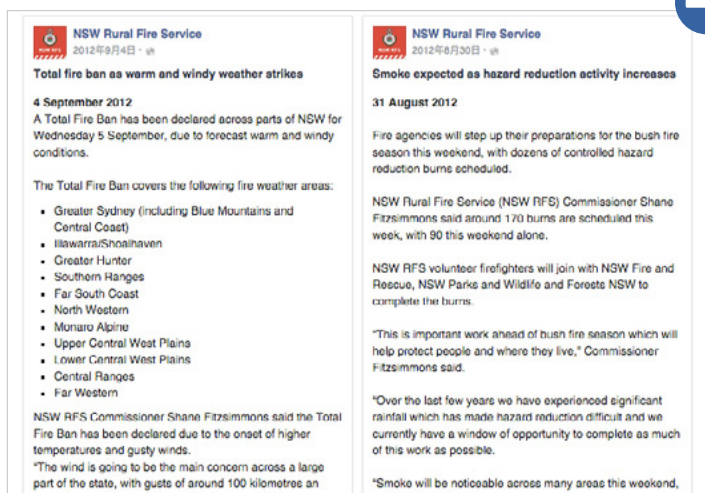
ハッシュタグの使用目的:

- 進行中の緊急事態に関連したイベントについての最新情報を検索しやすくするため
- 投稿をより多くの人に発見してもらうため
- 特定の災害やトピックについての議論を広める、またはその議論に参加するための方策として

詳細はこちら

facebook.com/help/hashtags

ノート



Facebookのノート機能を使うと、通常より長いコンテンツ(ニュース記事やブログ投稿と同程度の量の文章)を、一般市民やFacebookページのフォロワーに向けて公開できます。

ノートの利用目的:

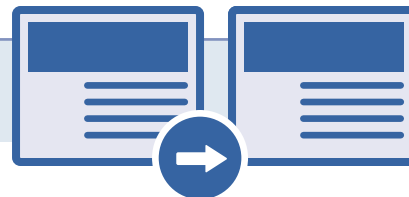
- 深刻な影響をもたらす恐れのある気象災害について説明し、注意を喚起するため
- 防災活動についての詳細を提供するため
- 最近実施された緊急事態関連のイベントについて、より詳しい経過報告として

詳細はこちら

facebook.com/help/notes

その他の役立つ機能

関連Facebookページのフォロー



関連するFacebookページにフォローや「いいね!」をすると、組織間のつながりや連携を促すのに役立ちます。ひとつのページを見ている人々に関連ページの存在を知ってもらう機会にもなります。

詳細はこちら
facebook.com/help/follow

タグ付け



他のページを投稿にタグ付けすると、その投稿から相手ページへのリンクが作成されます。自分たちのページ以外へのタグ付けによって、自分の作成したコンテンツへのリーチが増えるだけでなく投稿自体の信頼性も高まります。また、自分たちのページをフォローする人々は、より簡単にFacebook上の他のページへアクセスできるようになります。

詳細はこちら
facebook.com/help/tagging

ページのメッセージ機能



ページのメッセージ機能を活用して、Facebookを利用している人々と直接コミュニケーションすることができます。あなたの組織に連絡をする方法を知らない人でも、また電話回線が機能していない状況でも、インターネット回線が利用できればメッセージ機能を使用して情報を直接共有できます。

詳細はこちら
facebook.com/help/pagemessages

メッセージの利用目的:

- 地域の住民が組織と直接連絡する手段のひとつとして
- 支援の要請や疑問に対する回答を求める地域の住民に直接回答する手段として
- 緊急性の高い情報を相互にやりとりするため

主なポイント

**1**

Facebookページを作成し、スタッフやボランティアで管理します。一方的な情報提供の場としてではなく、組織と地域の住民の間、そしてより多くの人々との対話を促進するよう心がけましょう。このような姿勢を示すことで、情報が行き渡りやすくなります。

2

定期的に更新情報を投稿し、災害発生時にも信頼のおける情報源になるようにします。

3

重要な情報を伝える時など、特に関心を持ってもらいたい投稿には、写真や動画を添えるようにします。

4

ボランティアのソーシャルメディア担当者を決めておきます。ソーシャルメディア担当者組織のFacebookにおける活動を管理し、災害時には信頼性の高い情報を提供し、問い合わせへの対応にあたります。

5

投稿にハッシュタグを挿入すると、Facebook上でより大きな規模で交わされている会話に加わることができます。また、その投稿を検索で見つけやすくする効果もあります。

6

投稿内で連携している組織に言及したときは、その組織をタグ付けします。

7

Facebookでコミュニティの動向をチェックし、有益と思われるコンテンツがあればシェアします。

8

緊急性が重視される質問については、メッセージ機能を活用して迅速なサポートや回答を提供できるように促し、このような協力に感謝の意を示しましょう。



個人と コミュニティの ためのヒント

個人やコミュニティは、Facebookを使用して相互につながったり、重要な情報を共有し、活動を運営、管理することができます。災害の発生時には、個人やコミュニティで運営される自発的な連携や復旧に向けた活動が非常に大きな意義を持ちます。Facebookのさまざまなツールを最大限に活用いただくことで、大事なときでも効率的にコミュニケーションを取ることができます。

情報のシェア

投稿と近況アップデート



投稿と近況アップデートは、Facebookで情報をシェアする主な手段です。

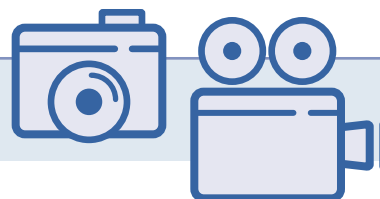
投稿と近況アップデートの利用目的:

- 自分が見たことや今の気持ちを、Facebookでつながっている家族や友達、コミュニティにシェアするため
- 自分の無事と居場所を知らせるため
- 支援組織や救助隊に連絡をとり、自分の身の回りの現状を伝えるため

詳細はこちら

facebook.com/help/sharing

写真と動画



自分が見たものや置かれている状況をFacebook上で伝える時は、写真や動画を使うと相手に分かりやすくなります。

写真と動画の利用目的:

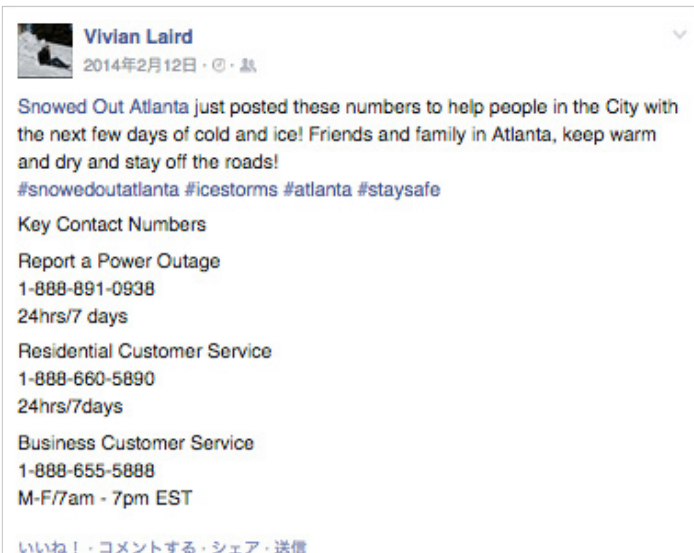
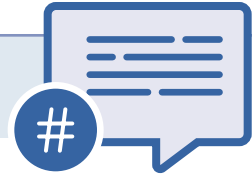
- 緊急状況の深刻性をより強く伝えるため
- 支援組織や救助隊が、現場の状況を視覚的に把握できるようにするために
- 災害時の落とし物や迷子になったペットを、持ち主や飼い主が後から見つけやすくするため

詳細はこちら

facebook.com/help/photos/uploading

情報のシェア

ハッシュタグ



単語や語句の前に“#”の記号を付けると、その単語や語句はハッシュタグと呼ばれるクリック可能なリンクになります。ハッシュタグを利用することで、特定のトピックに関心を持ち、関連する情報を検索する人たちの目に触れやすい投稿を作成することができます。

ハッシュタグの利用目的:

- いま自分の周囲で発生している状況を共有するため
- 緊急事態における特定の事柄について、更新情報を知らせるため
- 特定の災害に関する既存のハッシュタグを使い、さらに広い規模で交わされている会話に加わったり、会話をリードするため。

Facebookでは、検索機能を使ってハッシュタグのトピックを検索できます。

詳細はこちら

facebook.com/help/hashtags

検索



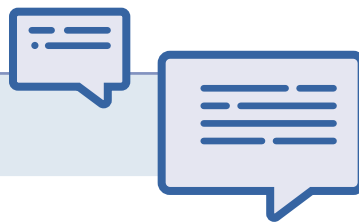
Facebookの検索機能を使って、特定の場所、人、報道機関やニュース、キーワードに関する情報を見つけることができます。

詳細はこちら

facebook.com/help/facebooksearch

情報のシェア

メッセージ



Facebookメッセージ(または携帯端末のMessengerアプリ)は、友達や家族との連絡手段として最も速いもののひとつです。電話回線が利用できない状況でも、インターネットが使える場合には電話の代替としてFacebookメッセージ(Messengerアプリ)を活用ください。

詳細はこちら
facebook.com/help/messenger

メッセージの利用目的:

- 個人または少人数間で簡単にすばやく連絡を取り合うため
- 一刻を争う情報をシェアするため

タグ付け



他のFacebookプロフィールやページを投稿にタグ付けすることで、自分の投稿から相手先プロフィールやページの投稿へのリンクが作成されます。Facebook上のあなたの友達やフォロワーは、より簡単にFacebook上の他の情報源にアクセスできるようになります。

詳細はこちら
facebook.com/help/tagging

Facebookを使った活動

Facebookページ



Facebookページは、人が記事や情報をシェアしたり、今いる場所の状況を伝えたり、コミュニティを形成したりするのに役立ちます。ページは特定の災害やトピックに対応するものとして活用いただけますし、地元コミュニティのために災害全般を扱うものにも指定できます。記事を投稿したり、イベントを主催したり、アプリを追加したりと、用途に合わせてカスタマイズが可能です。

人が集まるFacebookページを作るには:

- カバーやプロフィール写真には、自分のページの目的や雰囲気が出るようなものを使う
- [基本データ]では、ページの目的を説明する
- 投稿はこまめに行い、関連性が高く時節に合った情報が表示されるようにする
- NGOやコミュニティリーダー、他の組織などが運営する関連ページや似通った目的を持つページに「いいね!」をしたり、これらのページをフォローする
- 他のページの関連する写真、動画、リンクなどをフォローにシェアする

例



災害NGO結



防災ガール

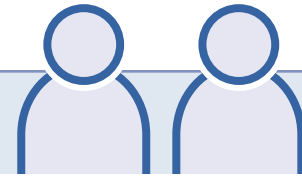


日本民間防災機動ネットワーク

詳細はこちら
facebook.com/help/pages

Facebookを使った活動

Facebookグループ



人々をさまざまなグループに分けて管理をするには、Facebookグループ機能が便利です。グループには必要に応じて公開、非公開、秘密という3段階のプライバシー設定ができます。

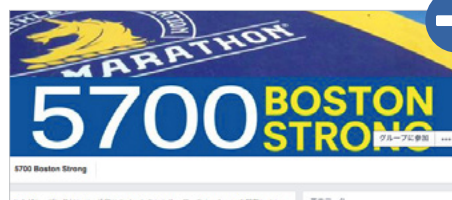
グループの利用目的:

- 深刻な自然災害に備えて防災情報をシェアするため
- ボランティアや組織内での活動を整理するため
- 災害発生後、復旧のために地元コミュニティが再び集まれる場所を作るため

例



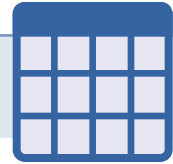
災害連携 チームALL JAPAN

ボストンマラソン ヒーラーグループ
(Boston Strong)インド 干ばつ支援グループ
(Drought Help Group)

詳細はこちら
facebook.com/help/groups

Facebookを使った活動

イベント



Facebookのイベント作成機能は、災害対策や実際の災害発生時の対応、事後の復旧のためにオンラインで、または現場で人々を集めるために活用できます。イベントへの参加を選択した利用者は、イベントページ上での他の参加者と交流し、イベント当日までFacebookを介してさまざまなお知らせを受け取ることができます。

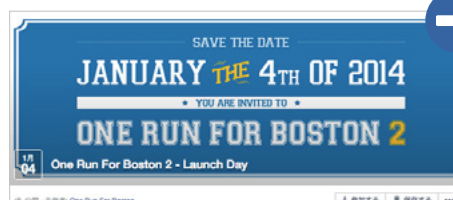
イベントの利用目的:

- コミュニティが共有する目標を設定するため
- 特定の災害について、より多くの人々に知ってもらうため
- 寄付やボランティアの機会を作り、周知するため

例



防災ガール 地震災害に関するイベント



ボストンのリレーマラソン
(One Run for Boston 2)



ジャージー海岸ハリケーン速報
(Jersey Shore Hurricane News)

詳細はこちら
facebook.com/help/events

主なポイント

**1**

自分自身が見たり、感じたりすることをシェアし、周囲の状況について他の人によりよく理解してもらいましょう。

2

近況アップデートでは写真や動画を活用し、緊急状況の深刻さの度合いを伝えましょう。

3

特定の災害やトピックについての議論を広める、またはその議論に参加するための手段としてハッシュタグを使いましょう。Facebookの検索機能を使って、他の人が使用しているハッシュタグを検索できます。

4

緊急事態への準備や対応、特定の災害と復旧の状況など、自分が興味を持っている状況や事態に関連するページに「いいね!」し、フォローする。これにより、ページの更新状況が自分のニュースフィードに表示されるようになります。

5

Facebookグループを使って災害対策のためのボランティアを集め、その活動内容を管理することができます。

6

寄付やボランティアの機会を作り、周知するためにFacebookイベントを使用します。

facebook

facebook.com/disaster